



# 峯のたより

みね

私たちのお寺、長泉寺の会報誌。

新装刊  
004号

2008年12月1日発行

〒981-1505  
宮城県角田市角田字長泉寺69番地  
電話 0224 (62) 1004  
FAX 0224 (63) 0063  
<http://www1.odn.ne.jp/chosenji/>

曹洞宗 長泉寺  
六国峯

国際環境規格ISO-14001認証取得のお寺

## 平成二十年九月十八日(木)、 長泉寺新本堂が落慶しました。



本尊 釈迦牟尼佛(仏師・佐藤栖鳳作)

檀信徒の皆様方とともに再建してまいりました長泉寺の新本堂が、地鎮式から三年余りの歳月を経てついに完成し、おかげさまでめでたく落慶の日を迎えることができました。あらためまして、篤く御礼を申し上げます。

去る平成二十年九月十八日(木)に執り行われた落慶式は、秋晴れの空に響き渡る花火の音で始まりました。まずは雅楽隊を先頭に、雅やかな音色に合わせてミネ幼稚園年長児のかわいい稚児行列が参道を歩み、その後を宮大工、再建委員の皆様、僧侶の順に続いて新本堂へ。行列が新本堂前に到着すると、鳩工舎の小川三夫棟梁より檀信徒代表の鎌田稔再建委員長へ新本堂の鍵が手渡され、いよいよ「開扉」となりました。「新しい心の抛り所が私たちに開かれた」という感動の中で、岩沼市剣道連盟居合道部会による「魔切り」(真剣を使った浄めの儀式)が奉

行いました。読経とともに参列者全員が焼香し、この瞬間から、伽藍の守護神である韋駄天様が新本堂を護つてくださり、ご本尊様が檀信徒の皆様の家門繁栄と子孫長久を見守ってくださいることとなりました。新本堂再建に際して皆様方から奉納されたお位牌も、こうしてご本尊様とともに安置されましたので、どうぞいつでもお参りにいらしてください。

午前十時より、瑞應寺専門僧堂堂長・榑崎通元老師を導師として本尊釈迦牟尼佛・韋駄尊天像の開眼供養と新本堂落慶法要を、続いて長泉寺住職・奥野成賢を導師として檀信徒総供養を執り行いました。



ミネ幼稚園年長児と保護者による稚児行列が参道を練り歩きました。



章駄尊天像(彫刻家・及川茂 作)

法要の後のに行われた落慶式典は、三文字正彦責任役員による開式の言葉で始まり、鎌田稔再建委員長からのご挨拶・経過報告を経て、再建事業に尽力された皆様への感謝状贈呈が行われました。油井敬夫前総代長をはじめ、鎌田稔再建委員長、篤志寄進者・鈴木俊輔様に曹洞宗管長賞典が贈られ、工事関係者を代表して鶴工舎・小川三夫棟梁へ、またご本尊様を造仏された仏師・佐藤栖鳳様へ感謝状が贈られました。

続いて多くの皆様からいただいた祝辞をご紹介し、住職が謝辞を述べて閉式となりました。閉式の言葉は、葉坂恒夫責任役員からいただきました。



ご本尊様・章駄尊天像の開眼供養と新本堂落慶法要をされた瑞應寺専門僧堂堂長・植崎通元老師。

落慶法要が行われた日の午後には、新本堂で佛前結婚式が行われました。「新本堂で最初の仏事はおめでたいことから」という思いで、本堂再建中から結婚式を挙げられるカップルを募集し、それが実現した慶事でした。この記念すべき日に挙式されたご夫婦の新郎は、新本堂建築を手がけてくださった鶴工舎の宮大工さんです。千年先まで子孫に受け継がれる新本堂のように、おふたりの幸せはいつまでも続くことでしょう。本当におめでとございます。



長泉寺住職・奥野成賢を導師とする檀信徒総供養の際には参列者全員で焼香を行いました。

また、落慶法要の前日(九月十七日)に行われた祝賀イベントも、檀信徒をはじめとする地域の皆様に大勢お集まりいただき、おかげさまで大盛況となりました。

祝賀イベントは紅白餅つきで始まり、続いて「火伏せの虎舞」が披露されま



写真上: 迫力あふれる「火伏せの虎舞」  
写真中: 大きな反響を呼んだ「みちのくプロレス」  
写真下: 「閃雷」の演奏に皆さんで拍手喝采

した。大きく広げた翼のような新本堂の屋根を舞台に、五頭の虎が舞い躍る光景はじつに雄大で、見る者すべてを魅了する美しさでした。「火伏せの虎舞」とは、宮城県加美町の旧中新田地区に室町時代から伝わる防火祈願の伝統芸能です。二部構成で行われた舞いの間には餅まきもあり、落慶の喜びを皆で味わうことができました。

津軽三味線と和太鼓のグループ「閃雷」による演奏も好評でした。奏者の五人は、非常に若い人たちでありながら三味線全国大会日本一など多くの実績を持つ、人気グループです。この日の演奏を聴いた人々の拍手や笑顔は、「閃雷」の皆さんにとっても楽しい思い出となったようでした。

意外性のある催しとして大きな反響を呼んだのは「みちのくプロレス」による「長泉寺杯争奪バトルロイヤル」でした。ご存じの方も多いと思います



「林家いっぺいご一行」による落語会

が、みちのくプロレスは岩手県議も務めたザ・グレート・サスケ氏を中心とした地域密着型のプロレス団体です。この日は、ミネ幼稚園の園児を対象としたプロレス教室も行われるなど、人気レスラーたちの多彩なパフォーマンスに熱い声援が飛びました。夕方から夜にかけては「林家いっぺいご一行」による落語会が催されました。林家いっぺいご一行が長泉寺のために特別に結成した一門会による、前座・二つ目を入れ込んだ本格的な落語会で、落慶の前夜祭は笑顔いっぱいのおひらきとなりました。

# おしらせ

## 新本堂落慶記念品について

このたびの新本堂落慶を記念して、檀信徒の全世帯の皆様へ左記の記念品を差し上げます。このうち書籍『長泉寺本堂再建』は十二月刊行予定ですので、すべての準備ができ次第、お渡しします。もうしばらくお待ちください。

### ◆落慶記念品

- ①「長泉寺本堂再建」文芸春秋社・発行
- ②DVD「長泉寺本堂の出来るまで」  
仙台放送OXエンタープライズ・制作
- ③「檀信徒の聖典——六国峯長泉寺」  
仏教文化振興会・発行
- ④落慶記念・先祖供養木札

### 皆様からのご喜捨に感謝します

本堂再建事業に際しましては、皆様方より多くのご喜捨をいただいております。『峯のたより』編集部からも心より御礼を申し上げます。詳しい会計報告につきましては、平成二十二年にお知らせする予定です。

### 長泉寺・年末年始の行事予定

「師走」の字そのままに、住職は師家養成所研修でフランス・パリ国際禅



道尼苑から戻ってすぐに大本山總持寺での研修に向かうなど、留守の多い日々が続いております。皆様方にはご不便をおかけしますが、何卒ご協力の程お願いいたします。さて、長泉寺の年末年始行事ですが、主な予定は左記のようになっています。今年もあとわずかとなりました。からだに気をつけて、一日一日を大切に過ごしましょう。

12月13日(土)

御開山忌

12月14日(日)

役員移動研修会(年末役員会)

12月25日(木)

歳末助け合い托鉢

12月31日(水)

除夜の鐘

1月3日(土)

新年大般若祈祷会、新年役員会

## 住職のすゝめる1冊

### 「棟梁 技を伝え、人を育てる」

小川三夫・著 (聞き書き・塩野米松)

私たちの新本堂を「宮大工人生の集大成」として手がけてくださった、鶴工舎の小川三夫棟梁が、舎主引退を機に出版された記念すべき著書です。

「法隆寺最後の宮大工」西岡常一棟梁に弟子入りした修業時代から、鶴工舎を設立して多くの弟子を育て上げるまでのさまざまエピソードが、あますところなく語られ、塩野米松さんによる聞き書きによって一つひとつの言葉がいきいきと心に響いてきます。

日本古来の伝統工法によって新本堂が建築されていく様子を、長く見守ってきた檀信徒の皆さんは、鶴工舎の工人たちが働く姿を目にされる機会も多かったでしょう。その様子を思い返しながら、小川棟梁がお弟子さんたちにどんなことを教え、どんな工人に育て上げようとされてきたのかについて読むことは、大変興味深いと思います。

私たちの新本堂は「千年先の子孫へも受け継いでいけるような、心の拠り所を」という願いで建てられました。千年という長大な時間を視野に入れて建物を建てる宮大工とは、いったいどんな教えで育てられているのでしょうか。

か。そんな疑問を解く鍵となる言葉がこの本では随所に発見できます。

たとえば第七章から一文を引用してみますと「法隆寺なんかは、不揃いの部材でできるといふことや。それでも千三百年持つてるんだ。もしかしたら、それだから千三百年持つてるのかもしれない。木を割るといふのは木の繊維を生かすことや。性質を無理に寸法に合わせてないんだ。(中略)形は不揃いでもいい。それをどう使うかで、うまく使いさえすれば、丈夫な建物になる。(中略)曲がりや癖は才能みたいなもんや。それをどう生かしてやるかが大工の仕事だった」というように、千年もつ建物をつくる「技」そのものが、千年という単位で仕事ができる工人を育てるための「教え」をも表しているわけです。

小川棟梁の言葉には、私たちの日々の暮らしに置き換えてみても、しみじみと学ぶべきところが多いと思います。新本堂が落慶を迎えたこの機に、皆さんもぜひ読んでみてください。



発行：文芸春秋  
定価：本体 1,524 円＋税

「木のいのち 木のこころ」～長泉寺本堂再建工事を通して～  
新本堂落慶記念講演会を開催しました【講師／鶴工舎・小川三夫棟梁】

去る十月四日（土）、鶴工舎いかるがの小川三夫棟梁をお招きして落慶記念の講演会を開催いたしました。会場となった新本堂には、檀信徒の皆様だけでなく「テレビや雑誌にも登場されること多い小川棟梁のお話を、ぜひ身近に聴きたい」という方々が各地から大勢いらっしゃいました。

講演会タイトルと同名の著書『木のいのち 木のこころ』を基に、修業時代のことや師・西岡常一棟梁のこと、宮大工という仕事について、そして弟子を育てることについてなど盛りだくさんな内容で、時には笑いと拍手が響き、時には真剣にうなずき、皆さんとても熱心に聴き入っている様子でした。とくに建物についてのお話は、長泉寺新本堂のことをふんだんに交えて語られたため、興味深く感じる方が多かったですと思います。法隆寺五重塔や薬師寺東塔などを例に挙げ、長泉寺新本堂がどのような技術で建てられているかを大変わかりやすく説明されていました。また、古代の工人が使っていた「槍鉋やりがんな」という道具で木を削る実演もあり、聴衆の中から長泉寺鐘楼などを手がけられた大工さんがチャレンジするなど、

会場は大いに盛り上がりました。

次のページで紹介する小川棟梁の近著『棟梁』を読まれると、この講演で語られた内容をさらに深く知ることができるようでしょう。また、檀信徒の皆様が落慶記念品として謹呈する『長泉寺本堂再建』という本には、新本堂の建築に込められた工夫が詳しく書かれています。講演を聴かれた方も聴けなかった方も、ぜひ一読ください。

このたびの本堂再建事業により小川棟梁とのご縁が生まれ、そして日本古来の建築について学ぶ機会ができたことに心から感謝したいと思います。来年には、小川棟梁に奈良のさまざまな建物を案内していただく見学旅行も企画しています。詳細が決まりましたら『峯のたより』でもお知らせしますのでどうぞお楽しみに！



スライドを用いて丁寧に解説される小川棟梁

曹洞宗  
Q & A

新しく始まったこのコーナーでは、曹洞宗や仏教についての「今さら聞けない」基礎知識や「知って楽しい」豆知識を、わかりやすく紹介していきます。

【Q】坐禅をしてみたいのですが、どうすればいいですか？

【A】長泉寺は曹洞宗認可参禅道場です。毎週日曜日の夕方五時から定例坐禅会を行っていますので、老若男女を問わずどなたでもご参加いただけます。直接お寺に来られても、お電話等でお問い合わせくださっても結構です。何も難しいことはありません。心静かに一時間ほど坐るだけです。坐禅の後には法話と茶話も行っています。まずは体験してみてください。

【Q】佛前結婚式とはどういうものですか？ キリスト教式とはどんなところが違うのですか？

【A】結婚という点、キリスト教の教会で式を挙げる方が多いのですが、仏教のお寺でも結婚式は行っています。長泉寺の新本堂でも落慶の日に結婚式が行われました。教会式との違いは、新郎新婦が「結婚を誓って神様に許可される」のではなく、「結婚を佛様とご先祖様に報告する」という点にあります。ふたりが出会った「縁」を感謝

し、ふたりを生んでくれた親や親類縁者、そしてご先祖様、佛様への感謝の気持ちを伝える儀式なのです。

【Q】合掌にはどんな意味があるのでしょうか？

【A】合掌は仏教の発祥地インドに古くからあった風習で、右手は「浄」、左手は「不浄」を表し、つまり合掌の形は、佛様の世界と私たち衆生の世界がひとつになった姿を表すと考えられます。修業の間でももちろん、日々の暮らしの中でもご先祖様をお参りしたり人と挨拶したりする時などに、尊敬や謙虚な気持ち、感謝の念を込めて合掌することで、心を調えるという大切な意味があります。



皆さんからのご質問をお待ちしています。曹洞宗に関するご質問、仏教全般に関わるご質問、長泉寺についてのご質問など、何でも気軽に御訊ねください。